

～若き21代目女性当主が守る市内最古の住宅～ 海瀬家住宅主屋を特別公開します！

要 旨

海瀬家住宅主屋は、江戸時代につくられた民家で、現存するものとしては市内最古と思われます。現在、国の有形文化財に登録する準備を進めています。普段は生活空間のため内部の見学ができませんが、近いうちに大規模な修理を予定していることから、今回建物の一部を特別公開します。

概 要

- 1 日 時 令和5年7月23日(日)①10:30～②13:00～③14:00～(計3回開催)
- 2 場 所 海瀬家住宅(沼津市西浦河内171-1)
- 3 主 催 者 一般社団法人仲屋
- 4 内 容 オクザシキなどの内部を公開します。専門家による解説も予定しています。
- 5 参加予定者 各回10人前後

※駐車場に制限があるため、取材いただける場合は事前に下記までご連絡ください。



建物外観



7月の河内天王祭ではナカザシキで獅子神楽が舞われる

お問い合わせ先

沼津市役所 教育委員会事務局 文化振興課(文化財センター)
直通:055-935-5010

海瀬家について

海瀬家は、江戸時代から明治時代にかけて、河内村の名主や戸長を務めた旧家です。屋号を仲屋といい、先祖は甲斐武田氏の旧臣と伝えられています。現在、西浦みかんを中心とした柑橘類の栽培・販売を行う農家を営んでおり、21代目の若き女性当主が農園を継承しています。

海瀬家住宅主屋について

建築年代は、使用されている釘などから江戸時代末期（築160年）は確実に考えられますが、棟札が見つからないため正確な年代はわかりません。民俗分野の調査では、大山講の札から18世紀末にさかのぼる可能性（築220年以上）が指摘されています。

建物は木造平屋建、寄棟造りの棧瓦葺きで、越屋根が載っています。勝手口が向かって右側にあり、部屋が6つある大きな農家住宅です。屋根はもともと茅葺きで、昭和4年頃に瓦に葺き替えられましたが、建物の基本的な骨組みはそのままとなっています。

今回公開する「ザシキ」は普段は使用されることが少ない公的な空間で、特別な機会にのみ使用されていました。特に、河内の天王祭ではオクザシキに神輿が据えられて、ナカザシキで神楽が舞われ、観客はマエザシキに座るといふ、民俗芸能の舞台にもなっています。なお、河内の天王祭は、コロナ禍を経て7月16日に3年ぶりに通常開催される予定です。

海瀬家住宅主屋の修理について

茅葺由来の急勾配な屋根のため、長い年月で瓦がずれて隙間が生じ、雨漏りが生じています。このため、建物を守っていくためには、屋根を葺き替える必要があり、クラウドファンディングを実施しながら、修理をすることを検討しています。



海瀬家住宅主屋外観



同内部（河内天王祭で神楽が舞われる）



← 仲屋 海瀬農園HP（建物や農園の説明）